

4 令和7年度のアンケート分析と成果・課題について

(1) 児童のアンケート分析の結果

子供たちへ生活・総合の授業アンケートを実施した。設問は、以下の通りである。アンケートの設問としては、昨年度の研究推進委員会で全国学力テストの質問紙の中から生活・総合に関わる設問をピックアップしたものと評価の観点を意識してつくったものとなっている。本年度も同じものを実施した。

【生活科】

- 1 せいかつかは、たのしいですか。
- 2 どうしてそうおもいますか？
- 3 かつどうをしている中で 分からないことを見つけて じゅぎょうにとりくめていますか？
- 4 もくひょうにむかって、たのしみながら じゅぎょうをすすめていますか？
- 5 せいかせいかつかのじゅぎょうがおわってから「もっとやりたい！」とおもいますか？
- 6 せいかつかのじゅぎょうをしている中で、あたらしいはっけんは ありますか？
- 7 せいかつかのじゅぎょうの中で、じぶんなりにくふうして 学しゅうをすすめていますか？（くふうする、ためす、たとえる、くらべる、けいかくをたてる）
- 8 せいかつかの じゅぎょうの中で、もくひょうにむかって さいごまであきらめずにできていますか？

【総合的な学習の時間】

- 1 総合的な学習の時間は、楽しいですか？
- 2 どうしてそう思いますか？
- 3 課題をもって授業に取り組んでいますか？
- 4 その課題に向かって、楽しみながら授業を進めていますか？
- 5 総合的な学習の時間が終わってから「もっとやりたい！」と思いますか？
- 6 総合的な学習の時間（授業や活動）の中で、いろいろなことを知れましたか？
- 7 課題を解決するための情報を自分で集め、他者に工夫して伝えられますか？
- 8 課題を解決するために、最後まであきらめずに参加できていますか？（自分から取り組む、友達と話し合う、他の人たちと関わる）
- 9 将来の夢や目標をもっていますか？
- 10 地域や社会を良くするために何かしてみたいと思いますか？
- 11 授業で学んだことを、次の学習に結びつけて考えたり、生かしたりすることができていると思いますか？

【1年生】

○成果→見解

- ・「生活科が楽しい」→楽しい、もっとやりたいと解答する児童が多く(100%)、日頃の活動を楽しんでいることが分かった。今後も児童が楽しい、おもしろいと思えるような活動ができるよう授業を設定していきたい。

●課題→解決策

- ・分からないことを見つけて課題に取り組んでいる→「不思議だな。」「なんでだろう。」という気持ちに寄り添い、解決していく時間を設ける。また、今が何を目標にしているのか分かっていない児童が多いように感じるので、「試す」時間なのか、「工夫する」時間なのかなどを意識させ、その時間の目標や活動をより明確にした授業を行う。4月当初から1時間の学習の流れを意識させた授業展開を、生活科でも実践する。板書なども工夫して、授業の流れを視覚的に意識させる。実体験以外の教室での活動も充実させる。

【2年生】

○成果→見解

- ・楽しい、もっとやりたいという意欲はとでも高くなっている。(楽しい・どちらかという楽しい→100%)→最後まで諦めずに取り組んでいる児童が増えた。前向きな気持ちをもてるようになったことで、粘り強く取り組めるようになってきている。

●課題→解決策

- ・自分自身で目標をもったり、わからないことを見つけたりすることができていない児童が増えてきている。→ゴールの姿を想像できていない、自分の今の立場や状況が把握できていないため、児童間で情報共有しあい、比べ合う時間をとる。
- ・新しいことへの気付きが弱い。まだ、自分なりに工夫をすることができていない。→記録を取り、視覚的にも以前と比較ができるようにする。

【3年生】

○成果→見解

- ・楽しい(楽しい→約77%・どちらかという楽しい→約23% 合わせて100%)、もっとやりたい、夢や目標をもっている、地域をよくしたいの項目で割合が高い。→今後の学習や自分の未来に前向きな気持ちをもっている児童が多い。
- ・昨年(2年生の時と比べ…) もっと授業をやりたい!と思っている児童が増えた。→生活科の学習の基盤が総合でも生きて働く力の実感をもてるようになり、生活と総合双方の学習のよさが分かってきている。

●課題→解決策

- ・情報を他者に伝える→3学期は、国語を中心に伝える学習の場を増やす。
- ・既習事項が結びつけられていない→授業内で教師からつながる場面を子供たちに問いかけ記録するよう促し、さらに掲示物で示す。
- ・概念形成ができるよう知っている情報を具体化する必要がある→体験をふやしていく、結び付ける(つなげる)時間の設定が必要である。

【4年生】

○成果→見解

- ・3年時、総合は楽しい◎(楽しい)74%○(どちらかという楽しい)24%△(どちらかという楽しくない)2%⇒4年時、◎(楽しい)84%○(どちらかという楽しい)16% 合わせて100%→総合について肯定的に捉える児童が増えた。

●課題→解決策

- ・3年生のときよりも難しい課題設定のため自分事として考えることが難しい児童もいる。→そこで課題を「障害者」からより身近な「高齢者」に2学期から変えたため、全ての学習が終わった際に、自分事として考えられるようにする。

【5年生】

○成果→見解

- ・ほとんどの児童が楽しいと思いながら、授業を進めている。→楽しい・どちらかという楽しい 合わせて約95%
- ・課題を解決するための情報を工夫して伝えられるようになった。(否定的な回答が減った。)
- ・諦めずに最後まで取り組むことができるようになった。

●課題→解決策

- ・地域との繋がりが薄くなってしまった。→地域の農家さんと早めに関わっていくようにする。
- ・課題をもって授業に取り組めていなくなった。→失敗スタートにしてしまい、課題意識がネガティブなものになってしまったので、成功から課題意識をもたせていく。

【6年生】

○成果→見解

- ・全体として総合や総合の学習内容に対して肯定的な考えをもち取り組んでいた。
→楽しい・どちらかという楽しい 合わせて約94%
→自分の夢に近づいていると実感できる課題により、児童が意欲的に取り組んでいる。
→友達と協力しながら考える活動が、学びの楽しさや深まりにつながっている。
→必要感のある課題設定により、児童が主体的に学習に向かう姿が見られた。
→自分で学習を組み立て、進めることができる楽しさを感じている児童が多数。
- ・課題をもって取り組んでいるかという質問に対して肯定的な評価をしている児童が100%
→自分の目指すべき課題を見つけられた。課題設定を進める中で、自分の興味や夢とつながるテーマに気づき、意欲的に取り組む姿が見られた。
→仲間とともに前向きな課題設定ができたこと友達との対話や協力が、安心感や学びの広がりにつながり、活動の楽しさを高めた。

●課題→解決策

- ・課題設定が難しい児童は、活動の楽しさを十分に感じられていない。→自分であらゆる選択肢をだし、多数の選択肢の中から活動を選ぶことができるようにする。

【メイプル学級】

○成果→見解

- ・昨年度は地震や火災など、身近に起こりうる災害から身を守るための術を学ぶことができた。防災への意識を、単元が始まる前よりも強めることができた児童が多かったが、児童が具体的にイメージをしたり、身近に感じたりすることはなかった。今年度は味噌汁（食）というテーマで取り組みやすい題材を設定したことで、児童の主体性を引き出すことができた。(楽しい→約67%、どちらかという楽しい→約33% 合わせて100%)
- ・昨年度は体験的活動として、防災センターに見学に行き、起震車による災害体験をしたり、マイタイムラインを作成して災害時の細かい行動を決めたりして、防災を自分事として強く捉えることができた。自分事として捉えることができる事柄には、より強い興味関心を持って取り組むことができる。また、具体的な備えや行動を周りと共有する姿勢（協働する力）が育まれた。今年度も、6年生が5年生、3年生に優しく教えながら活動することができている。

●課題→解決策

- ・年度により児童の出入りがあり、また少人数である。児童の実態や特性もそれぞれ違い、目標も個別に立てている。→防災から食へ題材を変え、児童の発達に合わせて発展できる単元計画を計画し直した。食は「味噌をつくりたい」「別の野菜を育てて具にしたい」など児童が意欲的に課題に向かえるような題材である。